藤沢市立　明治保育園　自己評価

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、藤沢市立保育所では毎年自己評価を実施していきます。評価を踏まえた計画の改善を行い、今後もより良い保育を提供できるよう努めていきます。

【評価について】
評価にあたっては、以下のような基準で行っています。
Ａ：達成されている　Ｂ：概ね達成されている
Ｃ：取り組んでいるが、一部改善を要する　Ｄ：改善を要する

1.保育の理念

内容	評価
①子どもの人権や特性に十分配慮するとともに、子ども一人一人のありのままの姿を受けとめ、すべての子どもが健やかに成長することを願って保育している。	A
②児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の重要な使命だと理解している。	A
③日頃から「保育所保育指針」「全体的な計画」「藤沢市保育計画」をよく読み、その理念を理解している。	B
④あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識している。	A
⑤保育所保育は養護と教育が一体となって行われている、ということを意識して保育している。	A
⑥日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしている。	A
⑦個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭について正当な理由なく第三者に漏らすことがないようにしている。	A

2.保育の計画及び評価

内容	評価
①保育の計画は一人一人の子どもの発達過程や興味、関心に即した内容になっている。	A
②保育の計画は養護及び教育に関わる内容の領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の6つの視点で作成されている。	A
③乳児保育のねらい及び内容についての、3つの視点を理解している。	A
④日・週の短期的な計画は年・期・月などの長期的な保育と関連させ、子どもの生活に即したものになっている。	A
⑤保育実践が言語化でき、保育日誌などの記録に活かせている。	A
⑥行事はその保育上の意義を十分検討した上で、保育計画に組み入れている。	A
⑦保育の計画は子どもが主体的に取り組める内容になっている。	A
⑧保育の計画のねらいや内容を保護者にわかりやすく発信している。	A
⑨計画性を持つと同時に子どもの発想から生じる偶発的な出来事を大切にし、柔軟性を持たせている。	A
⑩計画の評価及び振り返りを行い、次の計画に活かしている。	A

3.保育の内容

内容	評価
①保育の内容は、目標を達成するための「ねらい」とさらにその方法を具体化した「内容」から構成されていることを理解している。	A
②子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」に配慮した保育をしている。	A
③子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている。	A
④基本的な生活習慣や生理的欲求に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
⑤子どもが主体的に活動できるように環境を整備している。	A
⑥身近な自然や社会と関われるように配慮している。	A
⑦様々な表現活動が自由に体験できるようにしている。	A
⑧遊びや生活を通して、人との関わりが広がるよう配慮している。	A
⑨子どもの人権に十分配慮すると共に文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるような配慮をしている。	A
⑩性差への先入観による固定的な観念や、役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	A
⑪乳児一人一人が心地よく過ごせるための環境が整備されている。	A
⑫長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A
⑬障がいのある子どもや支援が必要な子どもに対して、保育の内容や方法に配慮が見られ適切な環境が整えられている。	A
⑭子どもの人権を大切にし、心身を傷つける性暴力や不適切な行為を防ぐための環境整備や保育の内容に配慮している。	A

4.健康及び安全

内容	評価
①日々の観察や保護者と連絡を取り合うことによって子どもの心身の状態を把握している。	A
②保育中に異常が認められた場合、保護者へ連絡するとともに、状況に応じて応急処置等、適切な対応をしている。	A
③睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態、仰向け寝をきめ細かく観察し記録している。	A
④感染症に関する基本的知識を有し、感染症対策に努めている。	A
⑤アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、全職員で周知し、適切な対応をしている。	A
⑥子どもが食事を「楽しく・おいしく」味わえるよう工夫し、食育の推進に努めている。	A
⑦施設設備の安全衛生点検を行い、事故防止に努めている。	A
⑧子どもの行動を予測して事故防止ができるよう、職員間で情報共有している。	A
⑨手洗い場やトイレ及び寝具や玩具など子どもの手に触れる物にきめ細やかな衛生管理を行っている。	A
⑩火災や災害時に備え、役割分担、迅速な対応等を考え、理解し行動できている。	A
⑪不審者対応に備え、子どもの安全を確保するための行動ができている。	A

5.子育て支援

内容	評価
①藤沢市の子育て支援の取り組みを理解している。	A
②地域交流の目的を理解し、子育て支援に取り組んでいる。	A
③保護者が安心して子育てができるよう連携を図っている。	A
④虐待についての対応を理解し、早期発見に努めている。	A
⑤おたより、クラス掲示、個人面談、懇談会、送迎時の連絡等により、子どもの育ちを共有している。	A
⑥保護者の意見やニーズを把握し、丁寧に対応している。	A
⑦保護者への支援は、職員間で情報の共有と役割を分担し、園全体で対応するように努めている。	A
⑧園として地域の子育て家庭のニーズを把握しながら保育園を社会的資源として活用している。(地域交流・育児相談・園庭開放)	A
⑨地域の行事や活動に参加したりボランティア、実習生の受け入れなど地域との連携、交流に努めている。	A

6.職員の資質向上

内容	評価
①保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めている。	A
②藤沢市の公立保育園の職員として、保育を取り巻く状況を日頃から理解しようとしている。	A
③自分の保育実践の内容や意図を、上司や同僚にわかりやすく説明し、意見を聞くように努めている。	A
④自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけ、その解決のために計画的に自己研鑽している。	A
⑤話し合いや会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言している。	A
⑥研修に参加したり、専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識や技能の向上に努めている。	B
⑦研修などで得た内容・成果を、園の職員にわかるように説明したり、実践に活かしている。	A
⑧自らが果たすべき役割を理解し、職員同士の信頼関係、保護者との信頼関係を深めるための努力をしている。	A

7.今後さらに向上を目指す点

自己評価の結果を受け、課題となっておりました『保育実践の言語化』『子どもの主体的な活動について』取り組んでいることが、職員の意識向上につながっていることを認識いたしました。保育の言語化については、今後も園内研修を通し保育内容の理解を深め、保育実践による保育の説明力の向上に努めていきます。また、子どもの主体的な活動については、子どもの興味や創造性をより引き出せるよう自己研鑽等に励み、保育の専門性を高めていきます。